

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	福島県
ふ り が な	あさかちゅうこういっかんこうせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	安積中高一貫校整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和5年10月10日 ～ 令和7年1月31日
災害枠で推薦の場合	(災害発生日) 年 月 日 (災害名)
3. 事業費(工事費)	2,113百万円
4. キーワード	歴史を未来へつなぐ校舎
5. 事業概要	安積中高一貫校は、「国内外に通用するトップリーダーの育成」を実現するため、STEAM教育を柱に据えた主体的・対話的な教育を展開し、確かな学力と高い知性をもつ生徒を育成するとともに、高校の敷地内に中学校舎を建設することにより中学生と高校生が世代を超えて交流し、共に学び人間性が伸長できる教育の場を目指している。 本事業は、新しい教育の場としての多様な空間の実現とともに、重要文化財である旧福島県尋常中学校本館を保存活用した安積歴史博物館に隣接することから、その歴史の一部を新設校舎に取込んだ建物として整備したものである。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)新しい建設技術(DX(i-Constructionを含む)、GX(脱炭素化を含む)や調査・研究等手法を含む)の導入、活用	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)当該事業による本来目的の効果 (e)良好な景観形成の実現 (h)省エネルギー、省資源化	() () ()

7. 特にアピールしたい点
隣接する歴史博物館の外壁と屋根の形態を、新しい安積中学校に転写したコンクリート打放しの壁や傾斜した床スラブは、多様な居場所を数多く生み出している。壁の向こう側は高校生と一緒に使う図書室に、3階の傾斜した床スラブの下は屋根裏部屋のような少人数教室に、上は階段教室として使われる。また、休み時間には生徒が集って雑談したり昼食を食べたりする場所となっている。こうした特別な場所は、従来のような均質な教室が並ぶ学校とは対極であり、直に触れたり寝転んだりできる身体的な経験を支えるものである。 このような歴史博物館と相対するという特異な敷地条件から導かれた意匠や空間構成は、学校の計画のあり方や歴史的空間との関係性の築き方として従来にはない新たな成果である。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



左に安積歴史博物館、広場を挟んで右に新校舎



投影した博物館の屋根勾配を活かした階段教室

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

■基本情報

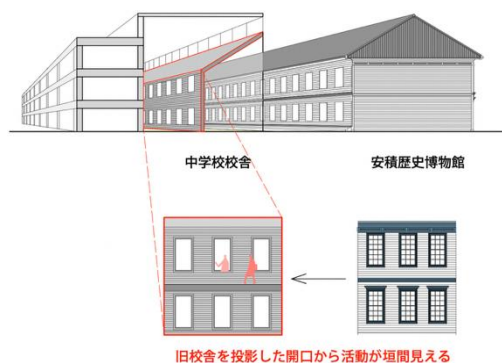
所在地：福島県郡山市開成5丁目地内

規模：地上3階

構造：RC造 一部 鉄骨造及び木造

建築面積：1,752.02 m²

延べ面積：4,478.45 m²



ハイサイドライトから光が降り注ぐ階段教室



階段室から博物館の外観を転写した RC の壁面越しに図書館を見る

【身体を通じた学びと空間のテクスチャ】

1・2階の壁には隣接する安積歴史博物館の外観を質感の異なる材料で再現している。また、3階の床スラブは博物館の屋根勾配を転写しており、新旧校舎を一体とした新たな価値を生んでいる。

斜めの床スラブの下側は屋根裏部屋のような少人数教室、上側は階段教室としており、生徒の個別的・対話的な学びを展開するアクティブラーニングスペースとして機能している。

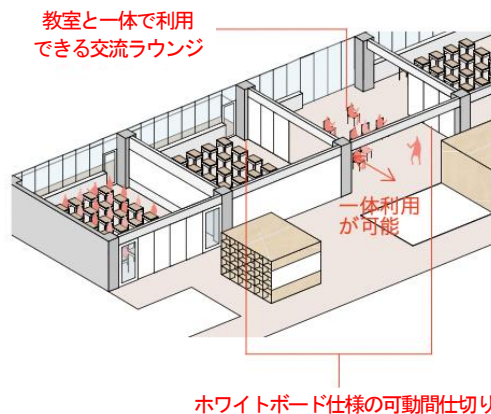
9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【往還する学びの場】

3階にある普通教室の3方の壁面をホワイトボード仕様とし、廊下や隣接する交流ラウンジ側を可動間仕切りとすることにより、開放すれば展示や交流の場となり、閉じれば授業に集中できる独立性を確保した静かな学びの場となるなど、柔軟な運用を可能としている。

さらに、少人数教室や共用空間が同じフロアにあることにより、さまざまな場所を行き来しながら、生徒は学びのスタイルを変えることができるようにしている。

こうして3階全体は、普通教室を核として、多様な教育活動を柔軟に支える空間構成とした。



可動間仕切りを開け放し、教室と一体利用できる交流ラウンジ



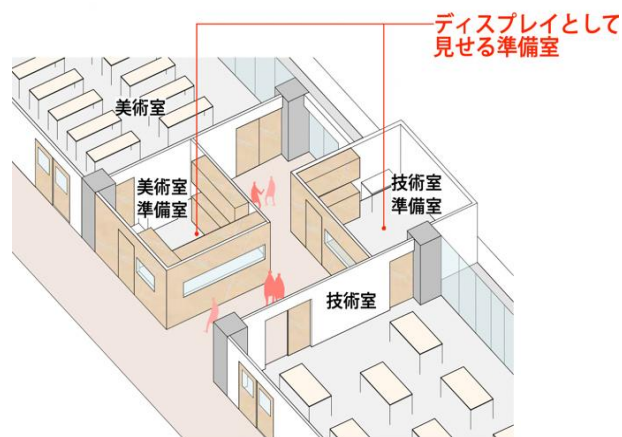
少人数教室でのグループ学習の様子

【学びのきっかけとなる準備室】

準備室は通常であれば閉ざされた裏方として扱われる空間であるが、あえて共用部に配置して実験器具や工具等の中身を見せたり、生徒が作成した絵画等を展示できるようにしている。この仕掛けにより生徒自らが様々な分野に興味を持ち、まだ見ぬ学びへと関心を広げていくことを期待している。



美術・技術準備室では絵画などが展示できる



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

【特殊化粧型枠】

博物館の下見板張りの外壁と木製の窓枠をコンクリート打放しで表現するため、型枠の大きさや表面仕上げを比較検討した。

モックアップ等による多くの検証の結果、土木構造物で使われる既成の発泡スチロール製化粧型枠を採用した。



博物館の外壁に合わせ型枠を検討



モックアップによる検証の様子



化粧型枠の施工

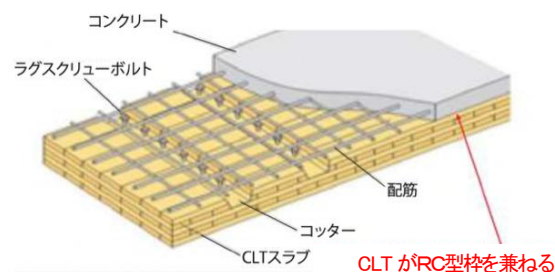
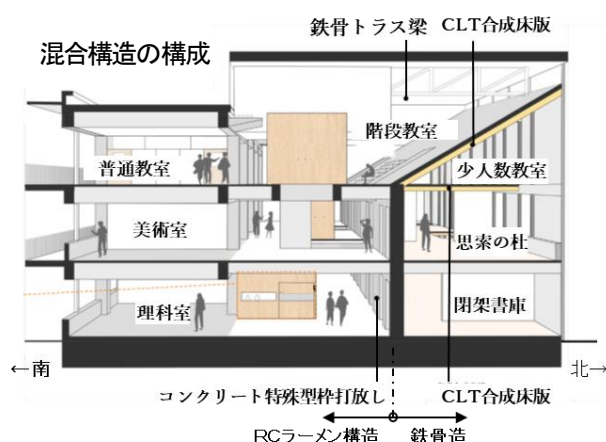
【混合構造・TCC スラブ】

歴史博物館の外壁を転写した RC 耐震壁を境に一般教室のある南側は RC ラーメン構造、諸室を配する北側は軽量の鉄骨造を採用した混合構造としている。大空間を覆う大屋根は鉄骨トラス梁とし、梁のせい(高さ)を利用したハイスайдライトから階段教室全体に光を取り入れている。

北側の2・3階の床及び斜めの床スラブには、軽量で環境に配慮した TCC (Timber - Concrete - Composite: CLT とコンクリートによる合成床版)を採用した。この軽量化により杭が不要となり、直接基礎としたことにより工期短縮・コスト削減を実現した。工場でコッター(溝)加工及びラグスクリューボルトをセットした厚さ 210mm の CLT の上面に、現場で鉄筋を配しコンクリートを 125mm 打設することにより一体化している。

CLT は燃えしろ設計も行っており、火災時には厚さが 60mm 焼失しても性能を満足するものとしている。仕上げ材・耐火被覆であり施工時の型枠ともなる CLT を活用した高剛性な TCC により、最大約 9m のスパンを実現するとともに、斜めの床スラブは耐震部材としても機能している。

十分な遮音性能を備えた木質空間の実現と木材利用による CO2 排出量を抑制する新たな可能性を示した。



TCC スラブのイメージ=CLT 合成床版



斜め TCC スラブの打設の様子



CLT はコッター(溝)とラグスクリューボルトによりコンクリートと一体化される